

平成29年度 第1回 学校関係者評価委員会記録

平成29年7月19日(水) 15:30~16:30

本校会議室 / 司会(副校長)

1 開会の言葉(副校長)

2 校長挨拶

暑い中お集まり頂いて感謝している。校長自己紹介。簡単な学校概況説明。
今年度は各学年7クラス男子459名、女386名、845名でスタート。男子クラスはない。
東北大、東大を始め高い進学実績を残している。今年度は100名の高校4年生(浪人生)が出ているが、第一志望実現のための指導をしている。

○行事について

対面式は時代の趨勢を考慮した応援団の提案で、正座して話を聞く形は無しになった。
現在の応援団、男子2名から、次期応援団は男子2、女子2名になった。女子も加わり新時代に突入したことを感じる。
県高総体では優勝旗3本の快挙。囲碁将棋、放送も全国大会出場。野球は4年ぶりの一回戦突破を果たした。

○学校経営計画

安定した教育活動が出来ており、生徒教職員のコンプライアンスを大切にしている。
Respect yourself Respect others Study hard を生徒・教職員の3つの誓いとする。
進学をしっかりとしてほしい、いくつかの部活を強化してほしいとの叱咤激励を頂いている。全て一気には叶わないかもしれないが、実現に向けて努力したい。今日は忌憚無いご意見を頂きたい。

3 委嘱状交付(学校評議委員)

4 自己紹介

5 学校概況報告

(1) 学校設定目標値の説明(副校長)

(2) 学習に関すること(教務課長)

年間2回生徒アンケートを実施している。全体的にここ3年間の評価は上昇傾向にある。「宿題や課題の量・内容は適切である」の項目がDであるが、他校と比べて多すぎるわけではない。生徒の理解が得られるように努力したい。

(3) 進路指導に関すること (進路指導課長)

この3月の卒業生について進路状況一覧の確認。与えすぎず自ら学ぶ姿勢を育み、生徒理解による信頼関係に基づいて、最終的には第一志望を貫徹することを進路指導課では重視してきた。

私立大学進学者の数が増加傾向にある。進学率は64パーセントだった。進学準備(浪人)も増加傾向にある。過卒生を含めた東大合格者二桁は東北で唯一である。SGU進学目標を80名に設定したが、昨年度は71名であった。原因としては医学部医学科への進学希望者が多かったことがあげられる。医学部医学科が多い年はSGUや東大は減る傾向にある。

浪人生のほとんどはSGU指定の旧帝大や東大、医学部の希望者である。志を変えず第一志望を貫く傾向が見られる。28年度を見ると56.5パーセントがいわゆる最難関大学に合格している。数年前は50パーセントを切っていた。良い雰囲気醸成されている。

中学校からの指摘に進学一辺倒ではない教育を求めたいとの声があった。人間を育てるのは進路指導という狭い領域では厳しいのかもしれないが、教員一人ひとりが生徒への愛情を持って接している。

(4) 生徒指導に関すること (生徒指導課長)

学習の間に行事も多い。行事の後のアンケートで、「その行事に自分から積極的に参加したか、協調できたか」という質問にマイナス評価の回答している者が多かった。自分に厳しい評価である。自己肯定感の低さから来るものかもしれない。一人ひとりが輝ける行事にしたい。自分に自信を持てるような生徒指導をしたい。

昨年度自転車関係の事故が5件あった。結果的に低い評価がつく。岩手大学と一高の間の道路の整備のおかげで事故が減るのではないかと期待している。交通安全、情報モラル、いじめの3つを柱として取り組みたい。情報モラル、いじめはリンクしている。

残念ながらいじめは皆無ではないが、自分たちでいじめをなくするという動きも出てきている。その考え方は県の目標でもあり、良い傾向である。部活動では高総体でテニス女子団体優勝、登山部女子優勝、弓道部女子団体優勝、将棋東北大会出場を果たした。また、放送委員会も全国大会出場と高い評価を頂いている。写真も岩手日報で賞をもらった。全員が輝ける学校を目指して指導していきたい。

(5) 学年概況

1 学年: おおむね順調である。学校の方針からずれないように指導している。重点目標である規律を重視している。面談を中心に、中学からのギャップに戸惑う生徒をフォローしている。教科でも面談している。今後は文理選択と上位者への面談もする。忙しい学校だが、学校生活は気持ちの持ち方で楽しむことを伝えたい。

夏休みに関してはすでにしおりを配り生活の仕方も指導している。一高を信じれば目標は叶うと感じさせたい。様々な教員で指導にあたっている。(評議委員からも) 沢山の意見を聞きたい。

2 学年: 留学等が2名。昨年自転車の事故が多かったが、そのほとんどがこの学年だった。しかし、この4月からは無い。成長が見られる。自発的な学習を促したい。上位と下位が乖離し始めている。課題等、物量には走るなど(職員にも)頼んでいる。勉強の仕方の指導を重視している。分厚い中間層を作らないようにしたい。生徒会長が女子、応援団も2人は女子である。新時代を感じる。

3 学年: 担任などのきめ細かい指導やカウンセラーなどの力を借りて、学校に足の向かない生徒にも対応

してきた。全国大会のある生徒、また文化部の一部の生徒を除き、本格的な受験体制にはいった。明後日から夏期講習に入る。昼過ぎまでは全員参加、午後は自主性を活かした選択受講である。各種模試も始まるし、東大講座などにも参加する。受験に向けた天王山である。自らの力で歩めるよう、3学年としても応援したい。

6 意見交換

評議委員 B: 学習指導アンケートの「宿題の量は適切である」の回答が D、とは多すぎるという意味か、少ないという意味か。

教務主任: 両方あると思われる。コメント欄を用意して意見を書けるようにした。

評議委員 C: 昔と違って男子はジャニーズのようだし、女子はチャーミングだ。素直で、学校生活を楽しんでいる印象だ。今時の高校生だと思う。目標設定値も高く日ごろの先生方の努力の結果だと思う。

一高は使命があり、中学からは人間を育てることを求められることもあるかもしれないが、一高は一高の使命を貫いてよいと思う。一高が中学生に求める資質や、もっとこうあって欲しいというのがあれば言うて欲しい。

中学生も教員も生の高校生を見る機会が無い。「学校へ行こう週間」のようなものがあると良い。開かれた学校になってもらいたい。外部との繋がりがあると良いと思う。

評議委員 D: 息子がお世話になっている。厳しくも優しいアドバイスをもらっている。その生徒の状況に合った指導をもらっている。息子は学校が楽しいようだ。

評議委員 B: 進路、部活等、先生方も含めがんばってくれていると OB として感じている。SGH の盛岡市との取り組みは非常に良いと思う。沿岸でも高校生から思いもよらない提案などもある。地域に根付いた活動がグローバル化に繋がると思う。

一高は全てが高い水準であることを考えれば、細かい数字にこだわる必要は無いと思う。

教育の質の維持と教員の多忙化の解消が必要と思われる。先生方が忙しすぎると教育の水準が下がるのではないか。教育委員会などとも関わるかもしれないが、削れるところは削って、先生方の生徒にかける時間を増やして欲しい。

評議委員 E: 6年前に PTA 会員だった頃の生徒は、自分の実力よりも志望校を下げたまで浪人しない傾向があった。しかし、近年の一高は高いレベルにいて、浪人してでも第一志望を貫く風潮は良いのではないか。

生徒指導に関しては自己肯定感が高いと思っていたので、低いのは意外だった。自分も生きる力は一高でもらったと思っている。これからも期待している。

評議委員 A: 先生方には生徒たちを思って指導していただいていると思う。学校設定目標値「授業の内容や指示は分かりやすい」の目標を 95 パーセントにしているが、なぜ 100 パーセントではないのか。昨

年度も言った。これは民間で言えば顧客満足度である。100 にしてはいかがだろうか。

評議委員 F: 自分の子供についてだが、親と会話が無い。中学あたりから会話が無いので学校の様子が分からない。

成績に関して、昨年度は休日に学校で勉強していた。友達とではなく一人でやっていた。(一人でもできる) 強さを感じた。

2 学年主任: 2 学年通信は今年度既に 14 号を発行している。(しっかり保護者に見せるよう) 今度言っておきます!

校長: (教員の多忙化について) 確かに本校の先生は多忙ではあるが、充実感のほうが強い方も多い。現状ではなかなか打開策はないが、意識改革を呼びかけている。

学校設定目標値の指標なども 100 にしたいが、県のアクションプランと連動しており難しい面もある。現状を見て、妥当な目標値を決めなければならない。県の政策指標とマッチさせている。ただ、あまり数字に惑わされずにやっていく方向で検討したい。学校公開についても検討したい。沢山の意見をもらえてありがたい。

7 その他

8 閉会の言葉 (副校長)